

連体修飾節における「V十夕」の中国語訳について

趙, 海城
九州大学大学院比較社会文化学府

<https://doi.org/10.15017/4494693>

出版情報：比較社会文化研究. 25, pp.61-71, 2009-02-20. 九州大学大学院比較社会文化研究科
バージョン：
権利関係：

連体修飾節における「V+タ」の中国語訳について

チョウ
趙

カイ ジョウ
海 城

0 はじめに

動詞が連体修飾語として現れる場合、日本語では修飾語に立つ動詞の形態は多くの場合、発話時または主文の成立時点を基準にして、その以前か非以前かによってル形かタ形かが決められ、以前であれば、タ形で表される。

ただし、連体修飾節の出来事や事態は、主節の出来事との時間関係さえ分かれば、主節のテンスを通じて、相対的に発話時間と連体修飾節内の出来事・状態との関係が分かることが多いため、連体修飾節内の動詞述語のタ形は、かならずしもテンスを担わなくてもいい。

このテンスから自由にいられる連体修飾節という構文環境及び被修飾名詞の示すものごとを特徴付けるといふ連体修飾の機能により、タ形は動作の実現や完了、結果状態のアスペクト的意味を表すようになることがある(例1)。さらに、連体修飾節のタ形は、動作の実現や完了、結果状態のアスペクト的意味から開放されると、結果のみを捉え、単なる状態を表すようになることがある(例2)。

(1) 年長の青年で学校へ遊びに来た卒業生も見える¹⁾。

【桜の実の熟する時】

上の例において、来た結果としてそこにいる状態を表している。

(2) 曲がった道、尖った岩

一方、中国語においては連体修飾節述語が動的動詞である場合、動詞が構造助詞「的」を介して、名詞にかかわる。この「V的N」構造は日本語の「VタN」のほかに、「VルN」にも対応する。例えば、

(3) a 「昨日着た服は洗いましたか／昨天穿的衣服洗了没有」

b 「今日着る服は用意してありますか／今天穿的衣服准备好了没有」

c 「明日着る服は忘れずに持っていきなさい／明天穿的衣服别忘了带上」

また、日本語の人称代名詞や固有名詞は連体修飾を受けることには比較的自由であるが、中国語においては、一部の文学作品以外、人称代名詞や固有名詞は連体修飾を受けることは稀だとされている。特に長い連体修飾節による修

飾を受けにくい。では、日本語の連体修飾を受けた人称代名詞や固有名詞が含まれる文は中国語でどう訳されるか。

このような表現法上のルールも絡まって、以上のような多様な意味を表す連体修飾節述語の「V+タ」形は中国語でどう訳されるかを見るため、本研究に取り掛かった。

1 先行研究及び問題点：

1.1 連体修飾節における「V+タ」の意味

連体修飾節述語動詞のテンス・アスペクトに関する研究は数多くあり、以下代表的ないくつかの研究を概観してみる。丹羽哲也(1996:33)が、「動作性述語において連体節ル形・タ形の対立をどう捉えるか」という問題の主たる対立点は、これをテンスの対立と捉えるか、アスペクトの対立と捉えるか、あるいは両方認めるかという点である」とまとめている。町田(1989)は連体修飾節述語動詞のル形・タ形の対立をテンス対立と捉える立場の一人で、連体節タ形を基準時(発話時と主節時の両方)以前と捉えている。他方、寺村(1984)は連体修飾節述語動詞のル形・タ形の対立を未完了・完了のアスペクト対立と捉えている。上の2者に対し、ふたを開けると中身こそ違いますが、以下挙げる研究はテンス・アスペクトの両方を認めているものである。

高橋太郎(1973:74, 85¹¹⁾「動詞の連体形「する」「した」についての一考察」

高橋はこの論文において、主に連体形の非動詞化の傾向に焦点を合わせていて、動詞が連体形として機能することによって「動詞らしさ」を喪失し、「形容詞性」を獲得することを明らかにしている。高橋は動詞の連体形の「した」の用法を次のように整理し、三者は連続的であるとしている。

1. 過去の動作、作用、状態を表す
2. 過去の動作、作用の結果が現在まで残っていることを表す
3. 状態を表す

高橋太郎(1974)「連体形のもつ統語的な機能と形態論的な性格の関係」

この論文では、理論的な考察がより深められ、「連体修飾」という構文論的な機能によって、連体形のテンスの意味が変化し、形容詞、後置詞に近づいていくという事実を明らかにした。

規定語になる動詞「する」「した」は、状況的な成分になる「する」「した」と同様、絶対的なテンス、相対的なテンス・アスペクトの面に対立するが、絶対的なテンスの面が非常に弱くなり、アスペクトの面は、状況的な成分になる時よりも強くなる (p.38)。

以前をあらわす過去形が、規定語となることによって、結果のアスペクトの性格を帯びてくる。この現象は、規定語の、名詞のしめすものごとを特徴づけるという機能そのものに原因を持つ。(中略)規定語になるということは、何らかの意味で特徴を付与する働きを持つことである。そのために、「かつてある動作をした」という動詞自身の持つ意味が「かつてある動作をしたという経歴あるいは痕跡をもつ」という特徴付与のニュアンスを帯びることが多い (p.40)。

- (3) 年長の青年で学校へ遊びに来た卒業生も見える。【桜の実の熟する時】

紙谷栄治(1989)「テンスとアスペクト」

- (4) これまでその機械を使用した人は不便に思ってきた。【発話時基準で絶対的テンスの過去】
 (5) 今後は使用した人にその量に応じて料金を請求する。【主節時基準で相対的テンスの以前】
 (6) 彼の立派に成長した姿を想像した。【動作の完了】
 (7) 鉄橋にさしかかった列車【動作の実現】

このように連体用法においては、多くの場合には、例(4)(5)のような相対的テンスや絶対的テンスによって解釈できるが、例(6)(7)のように、連体用法においては、終止用法とは異なって、発話時を基準とした時を表す必要がないために、従属節の「タ」形は主文の動詞の表す時と関係なく、動作の実現や完了などのアスペクトの意味を表すことができる。また、連体用法の「タ」形は、動作の実現や完了の意が、その結果のみを表すようになり、単なる状態を表すようになることがある。

- (8) 曲がった道、尖った岩【単なる状態】

金水敏(1994)「連体修飾の「タ」について」

金水敏(2000)「時の表現」

金水(1994)では「V+タ」を含む連体修飾節を「動詞的」用法、「形容詞的」用法と分けて分析している。一方でタが過去、既然、完了を表す連体修飾節を「動詞的」と呼

んでおり、他方でそれに対し、Cのような非時制的で、主体のある様子を時間的な局面変化ではなく、他と比較して特徴づけるものを「形容詞的」用法としている。

- A 去年1年間で3回車が変わった人を知っている。(過去)
 B 彼は3度目に変わった車を売る気だ。(既然、完了)
 C 今度はちょっと変わった車を買おうと思っている。(形容詞的)

須田義治(2005)「連体形のテンス・アスペクトについて」

- (9) 5年前、結婚15周年の記念に、父さんが母さんに買ってあげた指輪だ。

例(9)において、シタは絶対的テンスの過去を表し、非分割的な動作というアスペクト的な意味を表す。例(10)では、シタが相対的テンスを表す場合、それはパーフェクト的な意味を持つシタである。パーフェクト的な意味を持つシタは限界達成の意味を表すシタと連続的である。

- (10) 問われるまま、聡美は目撃した事故の一部始終を話した。【宮部みゆき・返事はいらない】

特殊な場合ではあるが、小説の地の文では、過去に設定された登場人物の「現在」を基準として、相対的過去が表されることもある。これはダイクティックな時間名詞の特殊な使用である。

- (11) 三千代は、昨夜一夫と歩いた銀座の通りを、重たい心で歩いていた。【林芙美子・めし】

シタが限界到達というアスペクト的な意味を表している場合、テンス的な意味は副次的に付きまとうだけで、シタの形は、ある時点(期間)に位置づけられた一つの場面の中の、いくつかの動作の間の継起的な時間的関係を表しているようである。この用法において、連体形のさしだす動作が限界に到達する時点が、終止形の動作の実現する時点に先行しているので、相対的テンスとも連続的であると言える。

- (12) 煙草をすい終えた孝夫は、ソファから立ち上がった。【重松清・ビタミンF】

丹羽哲也(1996)「ル形とタ形のアスペクトとテンスー独立文と連体節一」

丹羽哲也(2001)「連体修飾節のテンスとアスペクト」

丹羽は連体修飾節ル形とタ形は以降・以前というテンス対立と未完了・完了というアスペクト対立が表裏関係にあり、ともに成り立つとしている。テンス対立は事柄の成立時間と基準時との前後関係を表すカテゴリーである。一方、アスペクトはものの属性(動作や変化という一時的・偶発的な属性)の時間的な面を表すカテゴリーで、アスペクト対立は「使う食器」「使った食器」は、連体節と主名詞との

間における関係を言うもので、「未使用の食器」「使用済みの食器」というのに近く、未完了・完了という対立をなす。連体修飾節部分が主名詞のあり方を表す中でアスペクトも表されるところとしている。

以上、連体修飾節述語動詞のタ形について、ル形も兼ねて先行研究における記述を概観した。高橋 (1973、1974)、紙谷 (1989)、金水 (1994、2000) のように、テンス・アスペクトのカテゴリーを認めた上で、絶対的なテンス過去の意味が弱くなり、既然、完了、結果状態のアスペクトの意味が強くなり、さらにいわゆる結果、単なる状態、形容詞的な属性を表すようになると分析している。それは、丹羽 (1996、2001)、須田義治 (2005) のように、テンス・アスペクトの意味の消長を認めるものの、タクシスの機能や主名詞との意味関係をも考慮に入れて、連体修飾節述語になる動的動詞のタ形がテンス・アスペクトの意味両方を常に持つとされるのとは一線を画すべきである。本稿は中国語訳がどうなるかに主眼を置くので、これ以上連体修飾節述語のタ形のテンス・アスペクトの意味について深く追求する余裕はない。本稿は高橋 (1973、1974)、紙谷 (1989)、金水 (1994、2000) のように、連続性は認めるものの、どちらかというとも単一の意味を認め、他の意味を表している場合それについても記述する立場に立ち、タ形の意味を以下のように規定する。

- ① 過去、以前の意味を表す
- ② 既然、完了、結果状態の意味を表す
- ③ 単なる状態、或いは動作を背景化した結果状態の意味を表す

1.2 連体修飾節についての日中対照研究

1.2.1 日中両語における連体修飾の使用制限の相違

一般に日本語は連体修飾構文を多用するが、中国語は日本語より遥かに連体修飾が成立しにくいと大河内 (1983) が述べている。特に、日本語では長くて複雑な連体修飾節が成立し、多用される傾向がある。これに関して、段 (2003) に以下のような記述がある。段 (2003) は日本人留学生による日本語の複雑な連体修飾節の中国語への誤訳について分析した上で、その誤訳の原因を以下のように分析している。

「日语是左側分枝型语言，靠自身粘着语的特点，借助表示各种语义关系的格助词以及动词，形容词的活用，较易构成这种较长或较复杂的连体修饰语。而汉语没有格助词，没有严格意义上的形态变化，主要靠语序，虚词表示意义关系，若定语部分太长，迭加层次太多，意思不易讲清楚。」(日本語は左側分枝分かれ言語で、自身の膠着語としての特徴、各種の意味関係を示す格助詞及び動詞、形容詞の活用のおかげにより、長くて、複雑な連体修飾節を作りやすい。一方、

中国語には格助詞はなく、狭い意味での形態変化を持たない言語で、意味関係は主に語順、虚詞(機能語)によって担われるため、連体修飾節の部分が長すぎると、意味関係が何重にも重なり、難解になりがちである¹⁾)

以下の例文は日本語として、文法上でも意味から見ても成立する。しかし、中国語に訳すと、複雑な連体修飾節を崩して訳したり、意識したりする必要がある。

- (13) [[太郎が飼っている] S3猫が殺した] S2ねずみが食べた] S1チーズは腐っていた。
*太郎养的猫咬死的老鼠吃的奶酪臭了。
老鼠咬过的那个奶酪坏了，那只老鼠也被太郎养的猫咬死了。
- (14) 檜皮色の着物を着た、背の低い、痩せた、白髪頭の、猿のような老婆【羅生門】
一个身着褐色和服的**老太婆**又瘦又矮，满头白发，颇像个猴子。

また、日本語の人称代名詞、固有名詞は連体修飾節による修飾を受けることがあるが、中国語の人称代名詞、固有名詞は連体修飾節による修飾、特に長い連体修飾節による修飾を受けにくい^v。

1.2.2 日中両語における内の関係・外の関係の異同

日本語の連体修飾節に関しては、寺村 (1975-1978) が詳しい。寺村は連体節と被修飾名詞の関係を構造的、意味的に捉えて、「内の関係」「外の関係」に分けて考察している。

- A さんまを焼く男 → 男がさんまを焼く
- B さんまを焼くにおい

Aのような連体修飾節と被修飾名詞の間になんらかの格関係が存在し、装定から述定への転換によって、被修飾名詞を修飾節の中に埋め込むことができる文を「内の関係」の連体修飾節としている。Bのような連体修飾節と被修飾名詞の間になんの格関係も存在せず、装定から述定への転換が不可能な文を「外の関係」の連体修飾節だと定めている。

意味的に見てみると、「内の関係」の連体修飾節は被修飾名詞を特定してはいるが、内容には関わらず、「付加的に修飾」している。それに対し、「外の関係」の連体修飾節は連体節全体が被修飾名詞の内容に関する限定をしておき、「内容補充的修飾」をすると説明している。

一方、中国語では、「VP的N」という連体修飾^{vi}構造について、朱 (1978) は以下のように2つのタイプに分類し、説明している。

- A 开车的人(車を運転した(する)人^{vii})、他讲的故事(彼が話す物語)
- B 开车的技术(車を運転する技術)、走路的样子(歩く様子)

Aタイプは被修飾名詞と修飾節の間に潜在的な主述関係或いは述目関係が存在している。Bタイプは被修飾名詞と

修飾節の間に潜在的な主述関係或いは述目関係など存在しておらず、修飾節は被修飾名詞の内容を限定するものである。

朱(1978)による中国語の連体修飾節分類は寺村(1975-1978)による日本語の分析ほど詳しくはないが、概観すると、寺村(1975-1978)の「内の関係」「外の関係」という分類に当たると思われる。朱(1978)が挙げていない「召开学会の九州大学→在九州大学召开学会」のような場所を表す成分が被修飾名詞によって担われる文も存在し、「内の関係」の連体修飾節と言える。

徐(1983)は中日両語の「内の関係」の連体修飾構造の対応関係を見るため、日本語の格助詞で表される格に立つ名詞が連体修飾構造の主名詞に転じることができるかどうか、中国語にも同様な変換が可能かどうかを、訳文によって検証した。徐は、日本語で連体修飾構造をとることが難しい「から」、連体修飾構造が可能な「と」及び原因を示す「で」、間接目的語を示す「に」といった格助詞によって示される成分が、中国語では連体修飾構文を取らないと結論づけている。

- (15) 汚職が起こった制度上の欠陥を認識しなければ、←
制度上の欠陥から汚職が起こった。
? 如果不认识产生了贪污的制度上的缺陷 ←由于制
度上的缺陷产生了贪污
- (16) 太郎が結婚した文子 ←太郎が文子と結婚した
*太郎结婚的文子 ←太郎和文子结婚了
- (17) 彼が死んだ結核(は治せるはずだった。) ←彼が結
核で死んだ
*他死亡的结核(按理说是可以治好的。) ←他因为
结核死去
- (18) 本を渡した学生 ←本を学生に渡した
*把书交给了了学生 ←把书交给了学生

「外の関係」の連体修飾節について、「死ぬ決心」のような日本語で修飾節が被修飾名詞の内容を示す連体修飾構造は中国語では連体修飾になりにくいと大河内(1983)が指摘されている。例えば、「その時、私は死ぬ決心をした」という文は中国語に訳すと、「那时，我下定决心要死」が一般的で、「那时，我下定要死的决心」のような連体修飾構造を取った文は一般的でないとしている。さらに、被修飾名詞「報告」「電話」「事実」「必要」「理由」などの内容を連体修飾節によって説明する文も、中国語では連体修飾構文を取らないとしている。

- (19) R大学より二種の粉炭は同一炭質であるという報告
があった。
从R大学来报告说：两种煤粉是同一炭质。

- (20) かれから都合が悪くて参加できないという電話が
あった。
他有事不能来参加，所以打个电话来。

1.2.3 連体修飾節における「V+タ」の中国語訳についての研究

張(1985)で、連体修飾節に現れる「た」に対して、中国語ではごくおおざっぱに言うと、「的」、「了的」、「結果補語+的」、「趨向補語+的」の四種類の形式が対応すると述べている。

張(2000)は動作動詞が連体修飾語として現れる場合、「食べた人」の中国語訳は、「吃的人」/「吃了的人」のように、「V的N」と「V了的N」との両方が使用可能としている。

「優れる」、「晴れる」のように連体修飾構造において、常にタ形で現れる、時間的な概念が含まれず、ある状態を帯びることを表す動詞は一種の静的で、形容詞的な修飾語で、中国語ではいつも「A的N」で対応するとしている。

- (21) 晴れた日にはここから富士山が見えます。/晴天从
这里可以看到富士山。
(22) 彼は大学では優れた成績を取めました。/他在大学
取得了优异的成绩。

1.2.4 連体修飾構造についての日中対照研究の問題点と本研究の目的

以上、1.2.1~1.2.3にわたって、日本語と中国語の連体修飾構造の適用制限及びタ形の中国語訳について見てきた。先行研究から中国語は日本語より連体修飾節の使用制限が強いことが分かる。それでは、日本語の連体修飾構造、特に複雑な連体修飾構造は中国語において連体修飾構造で表現できない場合、どういった表現で賄っているのか。連体修飾節における動的動詞「V+タ」の中国語訳は「V+的」、「V+了的」、「V+結果補語+的」、「V+趨向補語+的」以外に、連体修飾節で表現できない場合を含めて、他の表現形式が存在するか。あればどういうもので、またどのようなストラテジーが取られているか見る必要がある。

また、「V+的」、「V+了的」、「V+結果補語+的」、「V+趨向補語+的」に限ってみても、どういった文において「タ」が「的」に対応し、どういう文において「了的」と対応するかについてはいまだはっきりとされているわけではない。また、なぜこの四種類の形式に対応するか、この四者において共通点はあるか、あればどういうものであるかは解明する必要がある。

2 データ収集

先行研究ではよく例示する日本語原文の中国語訳を自分の感覚で訳したものが多く、また日本語の原文までも作例になっているものが少なくない。本稿では翻訳者個人的要

素の影響を極力排除するため、原書が日本語で、翻訳版が2つ、あるいは3つあるもの限定し、データを収集した。データ収集作品及びその訳本は以下の通りである。なお、用例は『日中対訳コーパス』CD-ROM 1に入っている作品を検索した。

訳本の記号	(1) ^{viii}	(2)	(3)
『坊ちゃん』夏目漱石	1986 陈徳文 海峡文艺出版社	1985 刘振羸 人民文学出版社	1989 胡毓文 人民文学出版社
『雪国』川端康成	1985 叶渭渠 人民文学出版社	1981 侍桁 上海译文出版社	1985 高慧琴 漓江出版社
『こころ』夏目漱石	1984 陈徳文 湖南人民出版社	1983 周大勇 上海译文出版社	

3 連体修飾節における「V+タ」の中国語訳

3.1 「内の関係」の連体修飾節における「V+タ」の中国語訳

以下の例のように、転出された被修飾名詞は元の文に還元する場合、「場所格」「目的格」「主格」になるものが見られる。

次の例において「V+的」「V+結果補語+了的」の形式で「住み慣れた」の意味を表している。「家」は「場所格」にあたり、タ形は「結果状態」のアスペクトの意味を表している。

- (23) 清は仮令下女奉公はしても長年来住み馴れた家の方がいいと云って応じなかった。【坊ちゃん】
- (1) 她说：“即便给人家当佣人，还比长年住在熟悉的人家为好。”
- (2) 清婆却说：“我虽然是做女仆，伺候人，但还是多年住惯了的地方好，”没有答应他。
- (3) 可阿清婆说：“虽说是给人家当佣人，但这是长年呆惯了的家，还是这里好。”所以没有答应。

次の例は「所+V+結果補語+的」形式で自動詞「起こった」の意味を表し、三人の訳とも助詞「所」が使われている。この「所+V+結果補語+的」形式が使われるには動詞が他動詞で、被修飾名詞が動詞の意味上の目的語であることが必要となる。被修飾名詞「失策」は日本語文では「自動詞」の主格に当たるのに対し、中国語では他動詞が使われ、被修飾名詞「失策、失算」はその条件を満たす「目的語」となっている。タ形は以前という相対テンスの意味と同時にパーフェクトの意味も表している。

- (24) 今考えるとこれも親譲りの無鉄砲から起った失策だ。【坊ちゃん】

- (1) 现在回想起来，这完全是亲娘老子传给的鲁莽性子所造成的失策。
- (2) 现在想来，这也是俺爹传给俺的蛮干脾气所引起的失算啊。
- (3) 现在回想起来，这又是爹娘给的卤莽性子所造成的失算。

次の例(25)の被修飾名詞は動詞の意味上の目的格を示す成分であり、他動詞のタ形は「完了」の意味と「結果状態」というアスペクトの意味を表している。「V+タ」の中国語訳は(1)では「V+結果補語+的」の連体修飾形式になっているが、(2)と(3)では、普通の叙述文に訳されており、「V+了」、「V+結果補語+了」の訳は動作の完了・実現を示すと同時に、継起的動作というタクシスの機能もしている。この(2)と(3)のような訳は日本語の連体修飾節における「タ」が完了やタクシスの機能を同時にしていることを相方から裏付けるものであろう。

一方、「V+結果補語+的」のほうは「齒磨と楊子と手拭」の由来という一時的属性を表している。

- (25) 来る途中小間物屋で買って来た齒磨と楊子と手拭をズックの革靴に入れてくれた。【坊ちゃん】

- (1) 她把路上从杂货店买来的牙刷、牙签和毛巾，一起塞进我的帆布提包里。
- (2) 出发的那天，清婆一早就来了，替俺张罗这个张罗那个。清婆在来的路上，从小杂货铺买来了牙粉、牙刷和手巾，装进一个帆布包里，送给了俺。
- (3) 动身的那天，阿清婆一早就来了，帮了不少忙。她来时还在路上的小杂货铺里买了牙膏、牙刷、毛巾，给我塞在帆布包里。

3.2 連体修飾節の述語動詞が「構造的形状動詞」である場合の中国語訳

次の例(26)被修飾名詞は動詞の意味上の場所格を示す成分であり、連体修飾節全体が「狛犬」の状態を示し、いわゆる「構造的形状動詞」¹⁸となっている。自動詞のタ形は動的事態の後に結果状態の継続部分を表現しており、「テイル」形に置き換えても問題ない。中国語訳を見ると、(1)は「V+結果補語+目的語+的」になっており、(2)は「A+的」という形式を取り、形容詞でその状態を表現している。(3)は「+変化」の成立点が背景化され、結果継続の部分が前景化される状態を表す「着」¹⁹の使用により、結果状態の意味がはっきりと訳されている。

(26) 神社であった。苔のついた狛犬の傍の平な岩に女は腰をおろした。 【雪国】

- (1) 那边是神社。女子在布满青苔的石狮子狗旁的一块平坦的岩石上坐了下来。
- (2) 那里有一座庙宇。她在苍苔斑斑的石雕狮子狗旁边，找一块平整的岩石坐下身来。
- (3) 那里有个神社。长着绿苔的石头狮子狗旁边，有块平坦的大石头，姑娘在上面坐了下来。

次の2例のタ形は結果状態の意味が前景化して、単なる状態を表すようになり、いわゆる「構造的形状動詞」と言える。中国語訳を見ると、例(27)の(1)と(3)は「酔った」にあたる訳「醉醺醺地」は連用修飾語となって、動詞「乱抓」（つかみ散らす）を修飾しているのに対し、(2)は動詞「做出」（作り出す）もあって、日本語原文と同じように連体修飾構造「酒酔的手勢」となっており、こちらのほうがわざと酔った身振りを作り出すという色のついた訳で、特殊な表現効果をもたらすために取られているように思われる。

(27) 女が廊下から大声に島村の名を呼んで、ぱたりと投げ込まれたように彼の部屋へ入って来た。いきなり机に倒れかかると、その上ものを酔った手つきでつかみ散らして、ごくごく水を飲んだ。 【雪国】

- (1) 她猛然趴在桌面上，醉醺醺地用手乱抓上面的东西，然后咕嘟咕嘟地喝起水来。
- (2) 她马上靠在桌子边上，做出酒醉的手势乱抓桌上的东西，咕嘟咕嘟喝了水。
- (3) 那天晚上大概十点钟光景，姑娘在走廊上大声喊岛村的名字，咕呼一声闯进他房里，一下子扑在桌子上，醉醺醺地乱抓上面的东西，然后就咕嘟咕嘟净喝水。

一方、例(28)の(2)の訳は連体修飾構造ではなく、主述構造をとっており、しかも中国語訳としてはこちらのほうが(1)より自然であるように思われる。「体が濡れている」ことと「風に吹かす」ことは関連の薄いもので、日本語は関連の

薄いもの、付属状況は連体修飾節で表し、1個の重要なものは主文末に置くという2つの事態を1つの文で言う表現方式をよく取る。日本語の駅アナウンスの「閉るドアにご注意ください」もその例であると楊（2005）が述べている。この例(28)も日本語は中国語と比べれば連体修飾節をよく取り、中国語は相対的に主述構造をよく取る言語であるという先行研究の指摘を裏付けるものであろう。

(28) 私はその時反対に濡れた身体を風に吹かして水から上って来た。 【こころ】

- (1) 当时，我正相反，让风吹着湿淋淋的身子从水中走上来。
- (2) 我呢，和先生相反，那时正从海里上来，身上湿淋淋的，在海风中吹着。

3.3 連体修飾節の述語動詞が「語彙的形狀動詞」である場合の中国語訳

次の例(29)～(32)において、連体修飾節述語動詞はいずれも「語彙的形狀動詞」で、タ形は単なる状態を表し、状態を表す接尾語とも言えそうである²⁰。中国語では「破旧」のような形容詞のみならず、「评论」のような動詞、「批评意味的」「含着淡淡的旅愁」のような存在状態を表す状態動詞的な動詞フレーズが使われている。例(32)になると、会話文であるため、形容詞、形容詞フレーズ「痛快」「痛痛快快」が述語として使われたり、連用修飾として使われたりして、連体修飾節になっていない訳を取っている。

(29) 古びた廊下は彼の踏む度にガラス戸を微かに鳴らした。その長いはずれの帳場の曲り角に、裾を冷え冷えと黒光りの板の上へ上げて、女が高く立っていた。 【雪国】

- (1) 他在破旧的走廊上，每踏一步，都震得玻璃门微微作响。在长廊尽头账房的拐角处，婷婷玉立地站着个女子，她的衣服下摆铺展在乌亮的地板上，使人有一种冷冰冰的感觉。
- (2) 他每走一步，那陈旧的走廊上玻璃门就发出微微的震响。在长长的走廊尽头，在帐房间的拐角上，有冷飕飕的衣裳下摆铺展在发着黑光的木板上，一个女人高高地站在那里。
- (3) 在陈旧的走廊上，每走一步，便震得玻璃门轻轻作响。在走廊那头帐房的拐角处，一个女人长身玉立，和服的下摆拖在冰冷黑亮的地板上。

(30) やがては日本舞の新人とも知り合い、研究や批評めいた文章まで書くようになった。 【雪国】

- (1) 后来还结识了日本舞蹈的新秀，甚至还写起研究和评论文章。
- (2) 不久，他结识了日本舞蹈的新人，还写了一些研究或批评意味的文章。

(3) 不久又结识一批日本舞坛新秀, 居然撰写起研究和评论文章来。

(31) だから、自分の淡い旅愁じみた言葉が、女の生活の急所に触れたらしいのを見ると、女を騙したかとうしろめたいぐらいだったが、 【雪国】

- (1) 因此, 他觉得自己旅途中这番淡淡哀愁的谈话, 仿佛触动了她生活中的创伤, 不免后悔不已, 就好像自己欺骗了她似的。
- (2) 因此当他一注意到他那带有淡淡的旅愁意味的言谈似乎触到这个女人生活的痛处, 他仿佛觉得自己做了一件亏心事欺骗了她。
- (3) 所以, 看到自己那番含着淡淡的旅愁的话, 竟触动姑娘生活中的隐痛, 便觉得好像欺骗了她, 不免有些内疚。

(32) 「なんでもないことじゃないか。山で丈夫になって来たんだよ。頭がさっぱりしないんだ。君とだって、からっとした気持で話が出来やしない。」 【雪国】

- (1) “这有什么关系呢? 在山上身体是好起来了。可脑子还是迷迷糊糊, 就是同你说话吧, 心情也还不是那么痛快。”
- (2) “这算得什么了不起的事呢。到了山地身子结实起来啦, 可是头脑老是不清爽。连跟你谈话也不能痛痛快快的。”
- (3) “这又有什么呢? 我上山把身体练结实了, 脑子却不大清爽。就连跟你也不能爽爽快快地说话。”

3.4 被修飾名詞が「人称代名詞、固有名詞」の場合の中国語訳

前にも触れたように、中国語は日本語と違って、人称代名詞が連体修飾節による修飾を取りにくい。以下の2例の中国語を見ると、「我」が被修飾名詞になっているものもあれば、主語となっているものもある。「我」が被修飾名詞になっている「特地来到鎌倉的我」「单身留下的我」を後続文との関係のを見ると、表現の中心は後続文、つまり、述語部分「给孤零零地撒下了」「免掉了另外去找合适的旅馆的麻烦」に置かれていることが分かる。

(33) 折角来た私は一人取り残された。 【こころ】

- (1) 这样一来, 我特意赶到这里, 反倒成了孤单单的一个人了。
- (2) 如果他母亲真的患了病, 那不用说他是必须回去的。由于这一点理由, 最后他还是回去了。特地来到鎌倉的我, 就给孤零零地撒下了。
- (34) 学校の授業が始まるにはまだ大分日数があるので、鎌倉に居ても可し、帰っても可いという境遇にいた私は、当分元の宿に留まる覚悟をした。……従って一人坊っちになった私は別に恰好な宿を探す面倒も

有たなかったのである。 【こころ】

- (1) 离学校开学还有许多日子, 由于我处在在鎌倉也可以回去也可以的境况之下, 就决定暂时留在原来的宿处。
・・・所以, 我单独留下来, 就没有必要麻烦地再去另找恰当的宿处了。
- (2) 那时候离开学校开学, 还有好多日子。我当时的处境是回去也行, 留在鎌倉也行。于是我就决定暂时留在原来住的那家旅馆里。・・・所以在生活程度上, 跟我也没有什么差别。这就使单身留下的我, 免掉了另外去找合适的旅馆的麻烦。

3.5 「V+的+N」と「V+了+的+N」の相違

張(1985)、張(2000)などで指摘されているように、連体修飾構造「V+タ+N」の中国語訳には「V+的+N」構造のほかに、「V+了+的+N」構造もある。

- (35) よく冷えたビール。／凉透了的啤酒
- (36) 疲れ果てた私は、或る瞬間には、柏木がわざわざ私の吃りをからかうために、こういう苦行を強いるのではないかと疑ったりした。／疲倦了的我, 忽然间竟产生一种想法, 柏木是不是为故意嘲笑我的口吃而让我尝以苦行呢?
- (37) 火の消えた熨斗をあんなに念入りに揉み消した態度／瞧他那副仔细地碾着熄灭了的火柴棍的神态。

「V+了+的+N」はもっぱら主文述語が動作性のものに使われ、形容詞述語文に出現することはほとんどない。

「V+的+N」はそのような制限はない。「V+了+的+N」のこのような使用制限は「了」の使用によるものである。

- (38) 喝了酒的人请登记一下。／お酒を飲んだ人はここに記帳してください。
- (39) 喝酒的人请登记一下。／お酒を飲む人はここに記帳してください。
- (40) ? 昨天喝酒了的人不多。／昨日、お酒を飲んだ人は多くない。
- (41) 昨天喝酒的人不多。／昨日、お酒を飲んだ人は多くない。

李(1990)、楊(1997)で指摘されているように、「了」は、主文の動的述語による行為より先に、連体修飾節のVが完了(実現済み)することが確認、強調する働きをする。以下の例のように、「弄通/わかる」は発話時現在において実現されていない。主文の述語「写/メモを取る」で差し出される行為より先に完了することを表している。

- (42) 希望你以后在读书的时候, 一定要做好笔记, 把弄通了的问题用自己的话写下来。／これから本を読むとき、読書メモを取ってください。分かったことを自

分の言葉でメモしてください。

- (43) 明天学校组织学生去郊游, 去的人举手。/あす、学校の主催で遠足が行われる。行く人は手を挙げなさい。
- (44) *明天学校组织学生去郊游, 去了的人举手。/あす、学校の主催で遠足が行われる。行った人は手を挙げなさい。

主文述語が形容詞のような状態述語である文では、いずれの行為が先に行われ、完了したかを区別する必要がなくなり、「了」の存在価値もなくなる。

一方、「V+的+N」において、Vの已然用法の中には動詞が主文述語の差し出す行為時を基準として、それより先に完了(実現済み)したことに重点が置かれるものと、発話時を基準として単なる過去を表すものがある。次の文は単なる発話時現在を基準とした過去を表している。

- (45) 昨天喝酒的人不多。/昨日、お酒を飲んだ人は多くなかった。

「V+的+N」と「V+了+的+N」が置き換え可能な場合もあるが、決してまったく同じ意味を表すことはない。

- (46) 昨天学校组织学生去郊游, 去了的人回来都说玩得很有意思。/昨日、遠足が行われ、行った人は帰ってきてみな楽しかったと言っています。
- (47) 昨天学校组织学生去郊游, 去的人回来都说玩得很有意思。/昨日、遠足が行われ、行った人は帰ってきてみな楽しかったと言っています。
- (48) 已经失去了的东西 (已经失去的东西) /すでに失ったもの
- (49) 摔坏了的锅 (摔坏的锅) /壊れた鍋

これに関して、李(1990)は「了」が重要な情報量を強める働きをすると説明している。つまり、「了」の付加により、連体修飾節における動詞Vが先に実現すること、完了することを強調するのである。

張(2000)も「V+了+的+N」(「吃了的人」)の表現の焦点はVという動作が実行したかどうかという修飾語の動的な局面の展開有無にある。こういう具体的、個別的で、2つの局面を視野に入れて、焦点を転換や展開に当てる場合、「了」を抜きにしてはいけない。「V了+的+N」はその動詞の差し出された局面とそれ以前の局面とのつながりによって転換を示すと述べている。

楊(1997:194)は動詞に結果補語のついた「動結詞」に対しては“了”の付加が比較的にしやすいという傾向が見られる。「V+了+的+N」における“了”は修飾される事

物自体のもつ異なり方のうちの一つを取り出して、他のあり方と区別する特徴づけをする役割を果たしているとしている。

- (50) 中国学校里教英语, 着实有好几十年的历史了, 然而学通了的人, 比例地说, 不算太多。
- (51) 我够了, 我是活厌了的人。(雷雨)
- (52) 年轻人一时糊涂, 做错了的事, 你就不肯原谅吗?(雷雨)
- (53) 他从提包里摸出一个小饭盒, 里面有一双截断了的筷子, 多半块熏鱼, 几只油爆虾, 两块豆腐干。(安乐居)

先行研究ですでに含意しているが、要するに「V+了+的+N」は「了」という「+変化」の意味を表すアスペクト助詞により、変化前と変化後の2つの局面を視野に入れた表現であり、「V+的+N」にはそのような含みがなく、したがって「未然」の意味をも表すことができる。

3.6 「V+的」、「V+了的」、「V+結果補語+的」、「V+趨向補語+的」の共通点

張(1985)は連体修飾節述語動詞の「了」形に対して、中国語ではごくおおざっぱに言うと、「的」、「了的」、「結果補語+的」、「趨向補語+的」の四種類の形式が対応すると述べている。連体修飾節述語動詞の「了」形について、前にも述べたように、「既然、完了、結果状態」というアスペクトの意味を表すことがある。先ほど述べたように、「V+的」は已然の読みが優先され、「V+了的」は完了の意味が含まれている。一方、「V+結果補語+的」について言えば、荒川(1981)が述べているように、日本語の動詞が多く結果までその意味範囲に含めているのに対し、中国語では行為のみに重点を置くものが多い。したがって、結果補語が発達しているのである。趨向補語についても、劉他(2004:548)では、大多数の趨向補語には結果の意味が含まれ、結果の意味には基本結果義のほかに、方向義と関係のない状態義もあり、この状態義は動作の開始、継続、停止など、アスペクトの意味を表し、アスペクト助詞に近い¹¹⁾と述べている。こう見てみると、結果補語も趨向補語も結果状態の意味を表すことができ、telicな動作、作用の実現を構造的に構成し、完了、結果状態の意味を表している。そのため、ここでの4種の表現はみな完了、結果状態の意味を表し、日本語の連体修飾節述語動詞の「了」形の「既然、完了、結果状態」というアスペクトの意味に対応していると言える。

4 「外の関係」の連体修飾節における「V+タ」の中国語訳

以下、今回収集した「外の関係」の連体修飾節における「V+タ」の中国語訳について以下2例のみ挙げる。以下の2例を見ると、日本語で連体修飾構造をとっているのに対し、中国語はいずれも意識している。例(54)では、3人の訳文とも主述構文「主語+下定決心」となっている。例(55)では、3人とも因果関係を表す表現「因为~所以」「由于」をとって、事態間の因果関係を表している。収集した例が少ないので、断言できないが、被修飾名詞の内容を表す「外の関係」の連体修飾節は中国語で連体修飾構造を取りにくいようで、先行研究の考察したとおりである。

(54) どこかへ奉公でもする気かねと云ったらあなたが御うちを持って、奥さまを御貰いになるまでは、仕方がないから、甥の厄介になりましょうと漸く決心した返事をした。 【坊ちゃん】

- (1) 我问阿清：“可想到哪里帮人家做事？”阿清这才下定决心，回答说：“在你有了房子，娶了夫人之前，看来是没有办法啦，我只好去投奔外甥。”
- (2) 俺问了问清婆：“你是不是有心去谁家帮工呀？”她这时才下了决心，回答说：“在您有了家室，娶了太太之前，万般无奈，我就到我侄儿那里去，受他照顾吧。”
- (3) 我问阿清婆：“你想不想到哪家去做工？”她想了想，终于下定了决心，答道：“在你有了房子，娶了亲之前，没法子，只好去依靠我那外甥吧！”

(55) でもそれには、彼がその娘を不思議な見方であまりに見つめ過ぎた結果、彼自らの感傷が多分に加わったのこともかもしれない。 【雪国】

- (1) 也许是因为他用过分好奇的目光盯住这个姑娘，所以增添了自己不少的感伤。
- (2) 可是由于他曾用一种奇怪的眼光，过分地注视了这个姑娘，也许就把他自己的伤感心情混合在里面了。
- (3) 或许是因为自己用异样的目光观察得太久，结果把自己的伤感也掺杂了进去。

5 終わりに

以上、先行研究を紹介した上で、連体修飾節における「V+タ」の中国語訳について考察した。その結果、先行研究で指摘されているように、「内の関係」の連体修飾節の中国語訳は「V+的」、「V+了+的」、「V+結果補語+的」、「V+趨向補語+的」の形式を取ることが多いことが分かった。また、中国語において、人称代名詞が連体修飾節による修飾をとりやすく、「外の関係」の連体修飾節も中国

語修飾構造を取りにくいようである。

本研究では、「V+的」、「V+了+的」、「V+結果補語+的」、「V+趨向補語+的」の4形式には、共通して完了、結果状態の意味を表し、そのため、「既然、完了、結果状態」というアスペクトの意味を表す連体修飾節述語動詞の「タ」形に対応していると指摘した。

また、いわゆる「語彙的形動詞」は「形容詞+的」のみならず、動詞、動詞フレーズ、また会話文では形容詞述語に訳されたり、連用修飾表現に訳されたりすることもあることを指摘した。中国語で連体修飾構造を取るかどうか、文体的にもかかわっているようで、その関連性を今後考察する必要がある。

主文動作を表現の中心に据え、強調する場合、何か表現効果をもたらすために、人称代名詞に連体修飾節が来ることもある。先行研究に述べたような日本語の影響もあろうが、それがすべての要因ではないと思われる。

「外の関係」の連体修飾節「V+タ」の中国語訳について詳しく考察できなかった。寺村(1975、1977)の被修飾名詞の4分類「発話・思考の名詞」「コトを表す名詞」「感覚の名詞」「相対性の名詞」について、連体修飾節述語「V+タ」のみならず、「外の関係」の連体修飾節の中国語訳を全体的に考察し、中国語表現の特徴を明らかにする必要もある。これらの問題を今後の課題としたい。

i 金水(2000:86)

ii 高橋(1974:40)

iii 本稿は高橋(1973、1974)について、参照したのは高橋(1994)『動詞の研究—動詞の動詞らしさの発展と消失』に所収されたものであり、ページもこの本に基づく。

iv 日本語訳は筆者によるものである。

v 刘月华等(2004:470): 专有名词和人称代词一般很少受定语修饰, 不过在文学作品中还是可以发现的。例如:

• 一夜没睡觉的王观临, 两只眼都熬红了。

• 还穿着破棉袄的他, 觉得浑身燥热起来。

赵博源(1999:105): 特别是以鲁迅, 郭沫若, 郁达夫等为代表的早年留日作家, 由于在阅读方面长期受日语影响, 在他们的作品里也时常出现人称代词受定语修饰的句子。如

• 有了四千年吃人经历的我, 当初虽然不知道, 现在明白, 难见真的人! (鲁迅《狂人日记》)

vi 中国語の文法術語では「定语」と呼ばれている。

vii 日本語訳は筆者によるものであり、以下同。

viii 以下例文を出す際、日本語原文は出典の作品名を表記するが、下につく中国語訳はいちいち表記せずに、(1)

(2)(3)の順で示すことにする。

- ix 「構造的形状動詞」「語彙的形狀動詞」という用語は金水(1994)によるもので、以下同。
- x 下地早智子(2004):「日中両語における文法現象としての視点の差異—移動動詞・受身の表現・テンス/アスペクトの場合」p.71
- xi 時枝(1950:148)では、「尖った帽子」「腐った根性」などにおける状態を表す「タ」は、連体修飾語としてしか用いられないものとして、連体詞とするのが適切で、「タ」は状態を表す接尾語と認めるべきだとしている。
- xii 原文は中国語で、ここでの日本語訳は筆者によるものである。

参考文献:

- 荒川清秀(1981):「中国語動詞に見られるいくつかのカテゴリー」『愛知大学文学論叢』67
- 大河内康憲(1983):「“語法知識”連体修飾」『中国語』297号 大修館書店
- 紙谷栄治(1989):「テンスとアスペクト」『講座日本語と日本語教育』4 日本語の文法・文体(上)
- 木村英樹(1982):「テンス・アスペクト:中国語」『講座日本語学』明治書院
- 金水敏(1994):「連体修飾の「タ」について」『日本語の名詞修飾表現』くろしお出版
- 金水敏(2000):「時の表現」『時・否定と取り立て』岩波書店
- 金田一春彦(1950)(編):「国語動詞の一分類」『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房(1976)所収
- 下地早智子(2004):「日中両語における文法現象としての視点の差異—移動動詞・受身の表現・テンス/アスペクトの場合」『神戸市外国語大学外国語学院』58
- 朱徳熙(1978):「“的”字結構と判断句」『中国語文』第1、2期
- 徐昌華(1983):「中日両語の連体修飾構造の対応関係への一試論」『人文学報』160
- 須田義治(2005):「連体形のテンス・アスペクトについて」『沖縄大学人文学部紀要』6号
- 高橋太郎(1973):「動詞の連体形「する」「した」についての一考察」『ことばの研究』4
- (1974):「連体形のもつ統語的な機能と形態論的な性格の関係」『教育国語』39
- 以上2編は『動詞の研究—動詞の動詞らしさの発展と消失』(1994)むぎ書房に所収
- 段銀萍(2003):「日语复杂连体修飾语的误译原因探源」『天

津外国語学院学报』第10卷第3期

- 張繼英(2000):「日本語の「た」と中国語の「了」との相違」『日本と中国ことばの梯 佐治圭三教授古稀記念論文集』くろしお出版
- 趙博源(1999):『漢日比較语法』江苏教育出版社
- 張麟声(1985):「中日両語のアスペクト—「了」と「た」を中心に」『日本語学』3月号
- 寺村秀夫(1975-1978):「連体修飾のシンタクスと意味—その1~その4」『日本語・日本文化』4~7号大阪外国語大学研究留学生別科後『寺村秀夫論文集I 日本語文法編』(1992)くろしお出版所収
- (1978):『日本語教育指導参考書4 日本語の文法(上)』国立国語研究所
- (1984):『日本語のシンタクスと意味II』くろしお出版
- 時枝誠記(1950):『日本文法口語篇』岩波書店
- 丹羽哲也(1996):「ル形とタ形のアスペクトとテンス—独立文と連体節—」『人文研究』48巻 第10分冊 大阪市立大学文学部
- 丹羽哲也(2001):「連体修飾節のテンスとアスペクト」『月刊言語』12月号
- 益岡隆志(1995):「連体節の表現と主名詞の主題性」『日本語の主題と取り立て』くろしお出版
- 楊凱榮(1997):「[V的N]における已然と非已然」『大河内康憲教授退官記念中国語学論文集』東方書店
- 楊凱榮(2005):「九州大学比較社会文化学府における集中講義レジュメ」
- 李鉄根(1990):「关于“V了的N”偏正短语中的“了”」『汉语学习』1990第4期
- 刘月华等(2004):『实用现代汉语语法(增订本)』商务印书馆

用例出典

- 『中日対訳コーパス』第1版(CD-ROM版)に収録された日本語原著作品とその中国語訳 2003年 北京日本学研究中心
- 『坊ちゃん』(夏目漱石)
- 『こころ』(夏目漱石)
- 『雪国』(川端康成)

The Chinese Translation of “V+TA” in Adnominal Phrases

Haicheng ZHAO

In this paper, “V+TA”, the specific characteristics of Japanese linguistic tense and aspect and the Chinese Translation of “V+TA” in adnominal phrases were studied. We found that the restrictions of using attributes in Chinese language are stricter than that in Japanese language by analyzing and comparing the same or similar linguistic contexts both in Chinese and Japanese. The attribute modifiers before personal pronouns in Chinese linguistic contexts are inclined for emphasizing the motions being expressed by the predicates of the main clauses or some special meanings. In addition, the common significance of the four forms Chinese translation of 「V+de」, 「V+le+de」, 「V+結果補語 (resulting complement)+de」, and 「V+趨向補語 (appulsive complement)+de」 which relate to “V+TA” lies in the emphasis of having been accomplished, having been realized and just the state of ending, which is much closer to the Japanese “V+TA” in adnominal phrases. Thirdly, the Chinese translation of adjective verbs in the Japanese “V+TA” in adnominal phrases includes adjective attributes, and may be understood as verbs, verb phrase attributes, or even sometimes as predicates and adverbial modifiers.